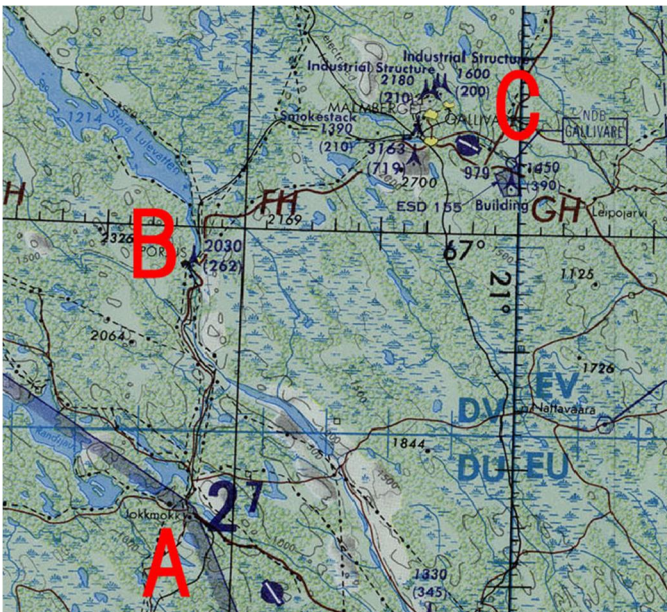


「今シーズンのオーロラの分析(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

観測地のスウェーデン・ポルユス村の駅舎は、スカンジナビア半島北部の、北緯67度付近の北極圏に位置する。ポルユス村は、ヨックモックという街から車で40分ほど北に位置する。



「航空地図上のポルユス村の位置」 Aがヨックモック(サーミの街)、Bが観測地のポルユス村(水力発電所の村)、Cがこのあたりでは一番大きいイエリバーレ(鉄鉱石の産地)。

ヨックモック(サーミ語で「川の曲がる土地」の意味)は北極圏の限界線にある街である。街はずれに「ここから北極圏」という看板がある。北極圏というのは地理学上(というよりも天文学上といったほうが正し

い)の境界線で、この線を越えたら急に北極の景色になる、というものではない。正確には北緯66度32分35秒の緯度線をさし、これより北では、1年のうちに少なくとも1日以上白夜(24時間太陽が沈まない日)と極夜(24時間太陽が出ない)があることになる。下写真は「北極圏境界線の標識」(ヨックモック郊外)



オーロラの実体である「オーロラ・オーバル」(卵型の楕円)は、スカンジナビア半島付近では、北緯67~70度付近の真上に位置し、オーロラ出現率が高い。しかしこの地域は、6月中旬~7月上旬にかけて白夜の季節となる。その前後も太陽は沈むものの、完全に暗くなることはなく、「夕焼けがそのまま朝焼けになる」といった状態が約4か月間続く。観測地のポルユスでも、4月中旬から8月中旬までは、オーロラの観測はできない。一年中観測が可能なのは、意外にも、北極圏よりも南側の北緯65度以南なのである。



今シーズン(2016年~2017年)、オーロラ観測カメラが、初めて本格的なオーロラをとらえたのは、**2017年9月13日だった(上写真)**。恐らく8月下旬から出現していたと思われるが、現地の再起動が遅れた為に、観測ができなかったのだ。秋特有の、上部が紫色の非常に美しいオーロラだった。(つづく)